

プログラムの概要

- お祭りなど、川をテーマにしたイベントを調査して参加する。
- イベントの目的をはじめ、起源や由来など、川との関連を明らかにして、発表する。
- 川が古くから地域の生活に密着していたことを再確認する。

関連する学習	・3・4年生—社会「身近な地域や市(区、町、村)の特色ある地形」 ・3・4年生—社会「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」 ・5年生—社会「環境の保全」 ・共通——道徳「自然や崇高なもののかかわり」 ・共通——「総合的な学習の時間」
所要時間	45分×3
活動場所	教室、地域の川に関するイベント会場など

Keyword

キーワード

- 地域の水辺 ●川の歴史 ●文化
- 川との共存・共生 ●環境保全



活動のねらい

- 川と地域生活の関連を、イベントやその由来などを通して確認する

川は地域の生活に密着しており、歴史的にみても人々はその恵みに感謝し、敬い、時には恐れてきた。その表現の一つとしてのお祭りやイベントが日本中に存在する。自分たちの地域で行われている川に関する行事を調べ、その由来や来歴を知ることによって、人々の生活に川がどのような役割を果たしてきたかを確認し、その存在感の大きさを知るきっかけとする。また、そのイベントなどに参加することによって、川の環境を保全することへの意識を高める。

さらに、川に関する伝説などが地域に伝わっている場合には、その意味を現代の視点から再考することによって、同様の効果が期待できる。

準備するもの

○調査に必要な道具や資料

- ・デジタルカメラ
- ・地図
- ・筆記用具

○野外で活動するための服装

- (イベント参加を実施する場合)
- ・動きやすい服や靴(体操服や運動靴など)

- ・帽子
- ・タオル

○安全に活動するための道具

(日中のイベント参加などを実施する場合)

- ・救急箱
- ・飲料水

活動準備



水夢きっず
(鮎沢川・静岡県・小山町)



- ・地域の河川に関するNPOなどのホームページにもアクセスしてみる。

① 情報収集

- ・地域において、河川に関するイベント、お祭り、行事等がないかについて、インターネットや書籍等を利用して予備調査をする。地方公共団体の担当部署（観光課や河川に関する部署など）や地域の放送局や新聞社などに問い合わせをしても情報収集できる。また、治水施設などに併設された資料館などで情報を得ることも可能である。
- ・それぞれのイベントの内容とともに、開催時期・時間を確認し、生徒が活動として参加できるか（適当か）どうかを確認する。もし可能（適当）ならば参加を前提に、そうでなければ「調べ学習」ととどめることを前提に活動準備を行う。
- ・地域によってはイベント等が複数ある場合も考えられる。生徒たちをいくつかのグループに分け、それぞれのイベントに関する調査をさせてもよい。
- ・調べ学習の一環として役所や施設を訪問する場合には、活動計画を施設等に連絡するとともに、イベント等に関する説明を行う担当者がいるかどうかを確認し、確認の結果によってその依頼をする。
- ・イベントについての講演を、開催担当者などに依頼することもできる。その場合には、事前にテーマや内容についての打ち合わせをする。

② 道具や器具の準備

- ・調査や発表のための、道具や材料を準備する。

③ その他

- ・調査に当たって、申し込みが必要な施設や窓口にはあらかじめ連絡をとり、活動の趣旨を説明して必要な手配も事前にすませておく。
- ・訪問施設や調査場所が遠い場合には、アクセス方法を確認するとともに移動手段を確保する。

活動内容

導入



こいのぼり(静岡県狩野川)

河川にまつわるお祭りなどの地域のイベントが、すでに広く知られている場合には、「〇〇（イベントの名称）に参加したことがあるか」などと問いかけ、さらに「〇〇は何のために開催されているか」「いつごろから開かれているのだろうか」などと問いかけ、導入とする。可能ならば参加することを前提に、そのイベントを深く調査してみることを提案する。

特に有名なイベントがない場合でも、歴史的にみても川が人々の生活に大きな影響を及ぼしており、その結果としてイベントや伝説などが地域に残っていることが多いことを話し、自分たちの地域にそのような例がないか（なかったか）を調べてみることを提案して導入とすることができる。



活動Ⅰ イベントについて調べる・参加する



・河川に関するイベントは、史実や伝説が基になっていることも多い。また、過去にあった水害などの被害を繰り返さないため、犠牲者の慰霊や鎮魂、さらには防災への願いが込められている場合もある。



- ・図書館や市町村役場などに行って資料を収集したり、インターネットなどを利用して、自分たちの地域の河川に関するイベントについて、どのようなものがあるかを調べる。
- ・イベントを選定して（複数でもよい）、その背景をさらに深く調査する。調査する内容は、「どのようなことが、どのくらいの規模で行われているか」「いつごろから行われているか」「開催されるようになったきっかけ」など、具体的に設定する。
- ・さらに、イベントにまつわる故事や伝説、史実などがないかについても調査する。
- ・可能ならばイベントに実際に参加して、そのときの様子や結果、感想などをまとめておく。

川の日（7月7日）

- ① 7月7日に七夕伝説の「天の川」のイメージがあること
- ② 7月が河川愛護月間であること
- ③ 季節的に水に親しみやすいこと

などから、国土交通省によって平成8年度から7月7日が「川の日」と定められている。

国土交通省によると、「地方公共団体、川に関するNPO等に幅広く（中略）河川に関する諸活動の推進を呼びかける」「河川と国民との関わりとその歴史、河川の持つ魅力等について広く国民の理解と関心を深めるような各種行事、活動を実施する」とされており、全国各地で多くの河川に関するイベントが開催される日にもなっている。

活動Ⅱ 地域の水のイベントについて発表する



川のイベントの様子

- ・活動Ⅰを通して得られた情報をもとに、地域の河川に関するイベントについての調査結果を発表する。
- ・活動Ⅰと併せて、イベントや地域行政の担当者などに、地域の水のイベントについての説明（講話）をしてもらうことも効果的である。
- ・終了したら、自分たちの地域で行われている河川のイベントについて「いつごろから行われており、どのような規模であったか」「いつごろから行われるようになったか」「その背景には、どのようなことがあったか」などを話し合う。
- ・イベントを通して、河川が地域住民の「憩いの場」や「恩恵の場」、さらには「生命を育む場」などとして位置づけられていることを再確認する。
- ・河川に関する過去災害への反省や追悼の意味をもつイベントもある。この場合には、治水や水防の重要性（5-2「地域の川の洪水の歴史を学ぼう」、5-3「治水施設について学ぼう」、5-4「水防について学ぼう」、5-5「ハザードマップをつくろう」参照）についても確認する。

まとめ

河川に関するイベントは、住民にとって川が非常に大きな存在であることを物語っている。古来より漁業（漁獲）や農業（水利）に恵みを与えてくれる「恩恵の場」や生活に潤いを与えてくれる「憩いの場」、子どもをはじめとした人々の「生命を育む場」としての河川に対する感謝や敬意のほか、過去に河川が舞台となった史実の顕彰、さらには、ときとして水災害を引き起こす河川への畏敬の念などが、イベントに込められているケースが多くみられる。

単にイベントに参加するだけでは意識することなく終わってしまうが、その背景を調査することによってみえてきた、河川と地域の人々の生活とのかかわりを改めて確認するとともに、河川環境を維持及び保全することや、水防災の重要性にも言及することによって活動のまとめとする。

発展

全国には、河川を中心にした大規模なお祭りが多くみられる。それらを調査することによって、「全国河川イベントマップ」を作成することもできる。そこから、河川と人々の生活とのかかわりの多面性がみえてくるはずである。

また、自分たちの周囲で行われている同様のイベントを比較して、それぞれの背景の違いに目を向けることによって、河川と地域のかかわりを再確認するきっかけとすることもできる。

河川と人々の生活とのかかわりの多面性を理解して、それらを総合的に把握し、複眼的視点をもつことによって、河川に対する意識をさらに高いものにすることができる。



河川敷ならではの仕掛け花火は見ものです

参考情報

○河川に関するイベントの情報

- ・各自治体のホームページ（イベントの紹介などの情報が掲載されている）
- ・地域の河川に関するNPOなどのホームページ
- ・それぞれのイベントの開催者によるホームページ

○出前講座に関する情報

- ・国土交通省防災教育支援ページ（河川に関する出前講座のメニューや映像資料、パンフレット等の情報が掲載されている）

(<http://www.mlit.go.jp/bosai/education/list.htm>)

○「川の日」に関する情報

- ・国土交通省のホームページ

(http://www.mlit.go.jp/event/kawanohi/kawanohi_.html)